

第7回薬薬連携の会（WEB版第1回）議事録

日時：令和3年3月12日（金）19：00-20：30

方法：WEB方式（Cisco Webex）

演題 COVID-19による各現場の現状と変化

演者 病院： 多摩南部地域病院 鎌田 健司 先生
調剤薬局： そうごう薬局永山店 寺田 武司 先生
在宅医療： 北野調剤薬局 氏家 雄一 先生
OTC販売： 龍生堂薬局永山店 楠 貴博 先生

対応と対策の現状

1. 病院

- 感染症患者以外の患者について、動線を統一し、サーモカメラを用いて検温を実施。感染症患者は、専用入口から入り、他の患者と接触しないようにしている。
- 薬剤師が患者と接触する場合は、フェイスシールド、マスク等、個人防護具を着用
- 投薬カウンターはビニールカーテンを設置

2. 調剤薬局

- ビニールカーテン、非接触型消毒ディスペンサー、座席にパーテーションを設置
- 発熱患者に対しては、裏口を発熱患者専用にし、患者からの電話連絡により対応
- 処方箋送付アプリを利用することで、呼び出し機能で密を防ぐことができる。

3. 在宅医療

- 日薬「みんなで安心マーク」に準じた対策
- 検温は出勤前後に実施、アイシールド、携帯用の手指消毒アルコールを支給

4. OTC販売

- 非接触型消毒液ディスペンサー、レジカウンターにパーテーションを設置すると共に、患者用に薬剤師の声が聞こえるようなマイクを設置した。
- お会計待ちの時の列の間隔を床に表示
- ウォーターサーバーの利用休止
- 待合スペースの座席を少なくし、混みあわないように対策。また、座席間にパーテーション設置、ベンチも間隔をあけて座るようポスターを掲示

質疑応答

- 処方箋送付アプリの利用状況はどうか。
→ 高齢者でも利用している。
- マスク、使い捨てガウン、手袋について、どのような素材がよいか？注意点は？
→ ほとんどがビニールガウン。通常使用しているものの脱ぎ着を徹底する。着脱方法が重要と考える。
- OTC 部門における発熱の相談はあるか。
→ 感染症流行初期は相談のため直接来局される方もいたが、最近はいなくなり、電話にて発熱時の対応を聞かれることが多い。
- 総合感冒剤の購入は多いか。
→ 初期はよく購入される方もいたが、最近は少ない印象である。